

「辺野古に基地を 絶対つくらせない 大阪行動」便り

まだ埋め立てが始まっていない大浦湾側の六割にあたる六五・四鈔に砂の杭七万六九本を打ち込む。使う砂の量は東京ドームの約五・二五個分。最も深い所は、水深三〇鈔の海底の下に六〇鈔の軟弱地盤の層があり、計九〇鈔に達する。日本企業の施工実績は水面下七〇鈔までしかない。政

府は「マヨネーズ地盤」改良工事にかかる工期や費用の見通しを一切、示していない。かてて加えて埋め立て予定地には極めて危険と判断された活断層（注）の存在が明らかになっている。

二月二十四日の県民投票でまたもや、そして改めて「辺野古ノー」の民意が明らかになった。しかし明けて、二五日も土砂が投入され工事は止まることなく続けられている。アベ政権は「投票結果を真摯に受け止める」と言いながら、埋め立てしやすい所からの工事を中断することなく、既成事実

を積み重ねて反対しても無駄といわんばかりの暴挙を続けている。

港合同は反戦平和を掲げて闘ってきたし、これからもそれは変わらない。戦争につながる基地建設には明確に反対だ。けど、今や「安保は必要、抑止力が必要」と主張する人たちがさえも辺野古での新基地建設に疑問を投げかけている。膨大な税金を湯水の如く使い、地盤沈下で地震で、あるいはその両方で海の中に沈み行く基地をつくり続けるのかと。

（注）二万年前かそれより新しい時期に繰り返し活動したもので、今後また動く可能性が高いことが判明している。

原子力規制委員会でさえ将来活動する可能性の高い断層を約十二万～十三万年前かそれより新しい時期に動いたものと認定している。



3月2日の「大阪行動」
この日署名は1時間半の行動で
180筆、集まる。

キャンプ・シュワブのゲート前では連日抗議の座り込みが続けられている。土砂搬入のダンプを体をはって止める。機動隊に暴力的に排除されても座り込む。そのことで一分でも一秒でも工事を

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

遅らせる。その積み重ねで基地建設を大幅に遅らせ、阻止してきた。それはこれからも続く。負けない。諦めない。

毎週土曜日の午後三時半から大阪駅前が始まる「辺野古に基地を絶対につくらせない大阪行動」。圧倒的無関心の道行く人々の流れから抜け出てビラを受け取る人。署名をしていく人。大阪行動の間たちと会話を続ける人。

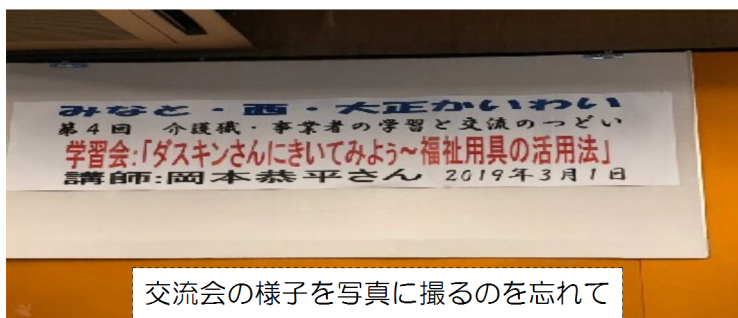
「大阪行動」に関心を寄せる人々が、沖縄を我が事のように思う人々が確実に増えている。情勢は、世の中は、世界は変わろうとしている。アメリカのトランプ大統領は崩れ



港区の近隣、界隈の介護職に携わる労働者や事業者に呼びかけて行っている「学習と交流のつどい」の4回目が3月1日(金)にありました。

月初には介護事業所は保険請求の時期なので多忙な人が多いせいもあり、参加者の数は前回よりも少なくなりました。今回は第1回目から参加してくれているダスキンの岡本さんに講師になっていただき「福祉用具の活用法」という学習会になりました。

そして「介護する人にも、される人にも、安心できる介護保障を実現せよ！これ以上の切り捨ては許さない！」と、昨年11月に行われた厚生労働省交渉の報告をケアワーカーズユニオンの但馬さんがしてくれました。



交流会の様子を写真に撮るのを忘れてしまっ…、横断幕です。

【NPOみなと合同ケアセンター】

ようとしている。日本本土でも沖縄の闘いに学び助けられて、アベ政権を崩そうとする人々が今後ますます増えていくだろう。私たちは諦めない。

編集委員 T

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！